

|   |  |   |
|---|--|---|
| <h1>恵那山学会ニュース</h1> <h2>第 15 号</h2> <p>2008 - 8 - 15</p> |  <p>キツリフネ</p> | <p>恵那山学会<br/> <a href="http://www.enasan.info/">http://www.enasan.info/</a><br/>                 〒508-0011<br/>                 岐阜県中津川市駒場 398-8<br/>                 金井 方</p> |
|---|--|---|

### 恵那山の植物観察会

### 富士見台から横川山の植物観察のご案内

観察場所 富士見台(1,739m)から横川山(1,620m)まで、往復の植物観察です。  
 歩く距離(片道) 3.5 km、累積標高差 + 275 m、- 255 mです。  
 (アップダウンが多いので、帰りも往きと同じくらい登ることになります)

\* \* 雨天の場合は、中止またはケヤキ平キャンプ場の植物観察に変更することがあります \* \*

と き 9月14日(日) 集合：9：00 解散：16：00(予定)

集合・解散場所 中津川市役所前駐車場

対 象 一般

参加費(受付時に集金)

一般参加費(資料と保険代など) 一人 1,000円

恵那山学会正会員は無料、家族会員は 300円

持ち物 雨具、弁当、水筒、地図、コンパス、カメラ、ルーペ、筆記具

申込方法 住所、氏名、年齢、電話番号、ファクス番号、Eメールアドレス、自家用車の有無などを書いて、ファックスまたはホームページのフォームメールからお申し込みください。

申込期限 9月10日(水)

問・申込 恵那山学会(金井)

電話：62 - 1056・FAX：62 - 1057

ホームページ <http://www.enasan.info/>

備考 天候により中止または変更する場合は前日(13日)の夜までに電話、FAX、電子メールなどでご連絡します。

\* \* \* 植物採集は、山菜を含めて一切出来ません!

\* \* \* 会員は出来るだけ早めにお申し込みください。

### 富士見台から横川山の植物(樋口帯刀氏作成)

下表は樋口さんの調査による富士見台から横川山の植物リストです。(一部同定が難しいものは除いてあります) 植物観察会参加者は、事前に図鑑やインターネットなどで調査の上参加して頂ければより充実した観察会になると思います。

(なにより、その場で聞いただけではすぐ忘れてしまう(体験的に)ので予習が必要です)

|    |          |    |           |    |           |    |        |
|----|----------|----|-----------|----|-----------|----|--------|
| NO | 和名       | 16 | タガネソウ     | 32 | ヤマオダマキ    | 48 | チマキザサ  |
| 1  | アカショウマ   | 17 | タマガワホトトギス | 33 | ヤマトウバナ    | 49 | ツゲ     |
| 2  | アキノキリンソウ | 18 | ツバメオモト    | 34 | ヤマトユキザサ   | 50 | ツルアジサイ |
| 3  | イタドリ     | 19 | ツルニンジン    | 35 | ヤマハハコ     | 51 | ツルシキミ  |
| 4  | イワセントウソウ | 20 | ツルリンドウ    | 36 | ヤマホタルブクロ  | 52 | ドウダン   |
| 5  | ウツボグサ    | 21 | ニガナ       | 37 | ユモトマムシグサ  | 53 | ナナカマド  |
| 6  | オオヤマリンドウ | 22 | ノギラン      | 38 | ヨツバヒヨドリ   | 54 | ニガイチゴ  |
| 7  | オクモミジハグマ | 23 | バイケイソウ    | 39 | アクシバ      | 55 | ネコシデ   |
| 8  | カワチブシ    | 24 | フクオウソウ    | 40 | イタヤカエデ    | 56 | ノリウツギ  |
| 9  | クルマバハグマ  | 25 | マイヅルソウ    | 41 | オオイタヤメイゲツ | 57 | ハナヒリノキ |
| 10 | ゲンノショウコ  | 26 | マルバタケブキ   | 42 | オオカメノキ    | 58 | ヒノキ    |
| 11 | コミヤマカタバミ | 27 | ミヤマエンレイソウ | 43 | オノオレカンバ   | 59 | ホツツジ   |
| 12 | ササユリ     | 28 | ミヤマタニソバ   | 44 | コナシ       | 60 | ミズナラ   |
| 13 | サワオトギリ   | 29 | ミヤマタニタデ   | 45 | コミネカエデ    | 61 | リョウブ   |
| 14 | シシウド     | 30 | メタカラコウ    | 46 | ダケカンバ     |    |        |
| 15 | ズダヤクシュ   | 31 | ヤエムグラ     | 47 | チシマザサ     |    |        |

**冊子「ウェストンをめぐる拙稿リスト」の進呈**

恵那山学会の皆様のご活躍の数々を「恵那山学会ニュース」などで拝察いたしております。さて、恵那山へ明治 26 年 5 月の昔、外国人として初登頂した英国人宣教師、ウェストン (1861 - 1940) についてですが。彼は明治 21 年 4 月に初来日。本年は来日 120 周年という節目の年となりました。

私はこの 120 周年に向け、私が昭和 30 年代から調べ、新聞、雑誌などへ発表してきた彼をめぐる拙稿をリスト化。520 余編の論文・随想ですが、ウェストン研究のリストとしては、他に類例がなく、同冊子が初めてとなります。

恵那山学会の皆様におかれ、ご希望の方がおありになれば、コピーのうえ、優先的に進呈いたします。ただし、コピー代 130 円と送料 180 円、合計 310 円 (10 円、50 円、80 円などの切手で可) のみのご配慮を願いたく。ご希望の方は切手同封の上、〒228-0001 神奈川県座間市相模が丘 4 - 66 - 12、田畑 真一 までどうぞ。問い合わせは 電話・FAX 046-253-8989 です。田畑 真一 (日本山岳会資料映像委員)

**【イベント案内】**

**中津川市鉱物博物館企画展「中津川市の天然記念物」記念講演会 (聴講無料)**

8 月 24 日 13:00~15:30 中津川市鉱物博物館

- 1. 「東濃地方の天然記念物」 糸魚川淳二氏 (名古屋大学名誉教授、日本シデコブシを守る会会長)
- 2. 「東美濃のレッドデータプランツについて」 塚田 真一郎氏 (野草散策の会代表)

**飯田市美術博物館企画展「ハナノキ湿地の自然史」**

**【記念講演会】(聴講無料)**

- 1. 「ハナノキと出会った植物たち—東海丘陵要素の起源と進化」  
植田邦彦氏 (金沢大学理学部教授)

8 月 30 日 (土) 14:00 ~ 飯田市美術博物館講堂

ハナノキ、ヘビノボラス、ミカワバイケイソウ、フモトミズナラなど、現在 東濃・北三河・下伊那に分布を持つ植物群である東海丘陵要素。その名付け親の先生に、東海丘陵要素植物の様々な起源と進化についてお話いただきます。

- 2. 「ハナノキ自生地地質と地形 シデコブシ・ヒトツバタゴと関連させて」

糸魚川淳二氏 (名古屋大学名誉教授)

9 月 13 日 (土) 14:00 ~ 飯田市美術博物館 講堂

ハナノキの生育環境である湿地は、特有な地質によって成り立っています。地質学者の視点から、東海丘陵要素のシデコブシ、ヒトツバタゴと対比しながらハナノキの生育環境を説明していただきます。

**【企画展の展示解説会】** 9 月 15・21 日 (10:00~、14:00~)

**なぜ美濃の名山か**

田畑 真一

「美濃の名山・恵那山」と言う。しかし、なぜか「信濃の名山・恵那山」とは言わない。ご存知の通り、恵那山は美濃と信濃との境界にそびえる名山だ。美濃だけに關わる名山ではないのだが。

これについては文化 9 (1812) 年に刊行された谷文晁の『日本名山図会』が示した表記「恵那山在美濃州恵那郡」にも一因があったのではないかと考える。

当時、前掲書を読んだ江戸時代の人々は、恵那山は美濃にある山だと理解したこと必至というべきだ。これは一部の地元の人々を除いての話。情報が乏し

かった時代であるから、前記した「恵那山は美濃にある山」との理解は、踏襲されていくと考える。歴史的な流れの中にあり、「美濃の名山・恵那山」は、あたかも既成事実となって行ったやの思いを持つのだが。(日本山岳会資料映像委員)

**【訂正】** 恵那山学会ニュース第 14 号の 4 ページ「日本名山図会・日本山岳志」の 5 行目、「恵那散」は「恵那山」の変換ミスでした。訂正します。

**《原稿募集中》** 記録を残さなければ、単なる個人的な物識りで終わってしまいます。自然観察、登山などの記録をお寄せください。随時 恵那山学会ニュースに掲載し、記録として公開し保存します。

恵那山雑感 『仏の道』(3)

「最澄と山中薬師(瑠璃山医王寺)」

張山 勇

寺伝によれば、「医王寺は、古くは天台宗の寺で山中薬師の前身は広済院」と伝承されてきた。

最澄は弘仁6年8月、東国巡化の道を東山道にとり、近江より美濃に入り、坂本駅を経て神坂峠を越えて東国に向った。神坂越えは最大難所で、しかも駅間の距離が他に倍して遠く、その間に宿ることもなかった。このありさまをつぶさに体験した最澄は、旅人の困苦を救おうと峠の西美濃側に広済院を、東信濃側に広拯院を設けて旅人の休泊所にあてた。(中津川市史)

広済院の所在地については、諸説あるが強清水が最も合理的と考えられる。(『恵那山研究・第2号』拙稿「広済院の位置は強清水である(?)」)

神坂峠(信濃坂)は、たびたび崩れている。『長野県歴史大年表』によれば、天延3年7月29日、東国に風害あり、信濃の御坂の峠路が崩壊(『日本紀略』) 康平1年12月16日、神御坂が崩壊(『扶桑略記』)とあり、更にこの頃木曾地方に平安時代の遺跡が急増すると載せ、『木曾福島町史』も、この頃より交通、木曾山道の方へ移る。と記している。

東山道の衰退により木曾路への移転を余儀なくされた広済院は、十国峠の「山中」へ移った。布施屋としての機能は薄れていったが、本尊の薬師如来像はやがて「山中薬師」と呼ばれるようになった。

山中薬師は、子供の虫封じの薬師として名高く、各地に「講」が出来るほど信仰をあつめた。しかしこのことは、一方では檀家の少ない原因ともなったという。その後戦乱による堂塔の罹災で荒廃していたのを天正13年、正誉存徹(存徹・存緻説あり)が中興し天台宗から浄土宗(京知恩院直末)に転じ

た。

山中薬師が瑠璃山医王寺と称するのはこの時からだろう。

「塚田年鑑」(落合村の山村方庄屋・問屋・脇本陣でもある塚田家控帳)には、寺内5町四方(約30町步)

藪林共に門田畑7反歩除地とあり、寛政年間に樋口好古が著した「濃州徇行記」や、天保より万延年間に編まれた「新撰美濃志」は、むかしは七堂がらんの巨刹なりしよし、いひ伝へ、今廃して境内の薬師堂に行基法師彫刻の像を安置す。と記しており、鳳来寺、蟹薬師と共に三大薬師と並び称されるのも頷ける。天明6年、忍誉白雄の時に焼失したが、行誉本孝によって再建されている。

ちなみに鳳来寺は大宝3年、文武天皇の勅願により、開山の利修仙が薬師仏を刻んで安置したという。この薬師は「浄瑠璃物語」によって喧伝された。矢矧宿の長者の娘(薬師瑠璃光如来の申し子)が、金売吉次に従って奥州へ下る途中の牛若と結ばれるという恋物語で、享禄4年ころに大いに広まった。江戸時代には將軍家の保護を受け、東照宮をまつり、仏法僧(コノハズク)の生息地としても知られ、昭和44年に天竜奥三河国定公園に指定されている。

蟹薬師は弘仁6年、伝教大師が比叡山よりこの可児の地に布教の折、御嵩に逗留した。そのとき徳の高い大師にすがる人々が多く参集し、教えを受け篤く帰依した。そこで大師は布施屋(宿泊所)を造り、そこに薬師如来像を自ら刻み安置した。これが願興寺の始まりといわれている。(大寺山願興寺縁起)

【恵那山の自然史データベース】

恵那山学会のそもそもの目的は、恵那山を極めつくすことで、そのために、自然史のデータベースは欠くことのできないものです。

恵那山の植物観察会も12回目を迎えます。この結果多くのデータを収集することが出来ました。内容的には十分なものではありませんが、この貴重な観察結果をデータベース化しておくことによって、更に次の観察結果を積み上げることが出来ます。

最終的には(果てしない道程の結果として)、入館者数を競う自然史博物館では為し得ない「恵那山の自然史」が出来上がるでしょう。

《ご意見募集中》 貴重な?マーク

“恵那山学会ニュース”に対するご意見や記事に対するご意見、評論などを常時募集しています。

記事の中にはワープロの変換ミスから始まって、単純な間違い、誤解、考え方の違い、論理の展開等々?マークのつく物がたくさんある筈です。現状では、その貴重な疑問はそのまま個人の頭の中に留まり、やがて忘れ去られているのではないのでしょうか。

この紙上で間違いを正し、議論を積み重ねることが紙一枚一枚づつの進歩になると思います。

ホームページのフォームメール、FAX、郵便などで皆様のご意見をお寄せください。(ニュース担当)